



のびのびい な っ 子

発行所
福島県立猪苗代支援学校
969-3283
耶麻郡猪苗代町大字長田
字並柳西 3966-2
Tel. 0242(65)2151



「感謝し、感謝される人に」

校長 本田 知史

今冬は、予報よりはるかに多い積雪がありました。本校の強みのひとつである「自然豊か」を肌で感じ児童生徒にとっては大きな学びがありました。教育活動後援会に大きな雪山を設置いただきまして、コロナ禍にあつて氷点下を下回る校庭から聞こえてくる児童生徒の歓声は心地の良いものです。そこには本校教育目標のひとつである「進んで学び行動しよう」の姿がありました。競うように昼食を摂り、ウエアに着替え、ブーツを履いてスキーの道具を持参し、だれよりも早く雪山に立つ姿はいなっ子本来の姿です。スキーをやってみたい、もっと上手く滑りたい、ターンをしながら滑りたい、そんな強い意欲をひしひしと感じました。この力こそ自主性を育む原動力となるのだと確信しております。学びはどこにでもあります。その学びを支援できるのは我々教職員はもとより、保護者の皆様、ばんだい荘の職員の皆様、地域の皆様であらうと思います。

準備をしてくれるおかげで、あらゆる事が成り立っていることを感じ、感謝できる人になつてほしいと思います。さらには自分が受けた恩恵を今度は他の人たちに与えられる人になつてほしいと思います。「感謝し、感謝される人」になることで更なる成長が期待出来ます。「ありがとう」たった五文字ではあります。が、自分で言っても、他の人から言われても笑顔になる言葉です。三月の最後の全校集会で児童生徒たちに「ありがとう」という言葉を伝えたいところ進行を務めていた生徒から「校長先生、ありがとうございます」とその場で声をかけてもらいました。うれしい限りです。「じょうぶな体をつくろう」と同じように優しい気持ちも育っていました。

今年度、様々な教育活動、行事が縮小、中止等を余儀なくされる中でいなっ子の心は成長していました。

今後、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら学びの保障を最大限継続してまいります。

「伝える力」

教頭 金澤 広司

令和二年度における学校経営・運営ビジョンの達成状況を評価するために進められた学校評価アンケートに御協力をいただきました皆様に感謝いたします。

教員はもとより、保護者、福島県ばんだい荘の職員、学校評議員の皆様からは様々な御意見、評価をいただきましたが、評定基準に基づいて評価した結果、各実施項目において「達成できた」「概ね達成できた」と評価されていることが分かりました。また、高等部生徒には学校生活や学習状況に関するアンケートを実施いたしました。

それらの結果を詳細に分析し、課題や改善点について整理したうえで、次年度に取り組むことを明らかにしました。詳細については学校ホームページに公開している「学校評価だより」「学校評価の結果と改善策」をご覧ください。

今回、課題の一つとして取り上げられた「伝える力の育成」について、考えてみました。

高等部生徒のアンケートから、自分の思いや考えを伝えたり、困ったときや悩んだときに相談したりすることが難しいと考えている生徒が多くなることが分かりました。自分の気持ちや考えを「伝える力」はこれから子ども達が大人になり、社会生活を営んでいくうえでとても大切な力です。



障がい者福祉では「意思決定支援」という言葉も用いられるようになってきたほどです。何を食べたいのか、何を買い取りたいのか、どこに行きたいのか、どんな仕事か、どんな生活をしたのか、障がいのある方々の思いや考えを尊重しようとする時代となってきました。

「伝える力」を代表するのは言葉です。自分の思いや考えを言葉にできることは素晴らしいことです。しかし、「伝える力」は言葉に限りません。身振りや手振り、「はい」「いいえ」に対する指差し、うなずき、ICTの活用等々手段はたくさんあります。また、「伝える力」は小さな頃から積み重ねによって身に付きます。大人が子どもの思いや考えを想像し、先に行動してしまつては、「伝える力」は育むことはできないでしょう。全ての子ども達に自分の思いや考えがあります。大人はその思いや考えを引き出し、受容することで子ども達に伝えようとする気持ちが湧いてきます。小さな頃からその子どもが得意な手段で思いや考えを伝える経験を積み重ねていくことがとても重要だと思います。

令和三年度、学校では小学部から高等部までの全ての年代において、「伝える力の育成」に着目し、一人一人の「伝える力」を育てていきます。

「もちつき会」

一月二十二日(金)、小学部による「もちつき会」が行われました。今年度はコロナ禍ということもあり、低学年と高学年の二グループに分かれて実施をし、あんど餅、きな粉餅、みたらし餅の三色餅を食べ、いづれも児童達には好評でした。

あんどの原材料である小豆は、児童達が一年を通して行ってきた畑の学習で栽培・収穫したものを使用しました。種まきから収穫までの過程を知ることができました。また、初めて餅つきをしたという児童や、今年は一人で杵を持つことができた児童など、それぞれが楽しみながら日本の行事文化に触れることができました。

小学部



「みんなでげんきに豆まきしたよ!」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、翁島小学校との交流及び共同学習が中止になってしまいました。そのため、今年度は二月一日(月)に小学部の児童十三名で豆まき集会を実施しました。会のはじめには、係の教師から「節分」や「立春」など豆をまいて鬼を退治することについて話を聞いたり、豆まきクイズに答えたりして、豆まきについての学習をしました。

豆まきは、二・三年生と四・五・六年生の二グループに分かれて行いました。「福は内! 鬼は外!」の掛け声に合わせて豆を鬼に向かってまきました。みんな鬼に向かって思い切り豆をまく姿が印象的でした。

感想発表では、二年・三年・四年の代表児童が発表し、「ベンキようをがんばりたい」「面倒くさがらずに行動したい」「体をきたえたい」と自分の心の中にある鬼を退治し、次の目標について発表していました。健康で安全に過ごすようにみんなで鬼を退治する充実した時間を過ごすことができました。



「楽しかったそり教室」

小学部そり教室を二月十二日(金)に、アルツ磐梯スキー場にて実施しました。

今年度は、校庭にゲレンデを作っていたので、事前にブレイキのかけ方や順番を守ることなどの学習に取り組んで当日を迎えることができました。

当日は、晴天に恵まれ、磐梯山を背に子ども達は何度もゲレンデをそりで滑って気持ちの良い風を頬に感じていました。

たくさん体を動かした後は、みんなでカレーライスを食べました。スキー場で食べるカレーライスは、いつも食べるカレーライスよりもおいしく感じ、また楽しい思い出が一つできました。

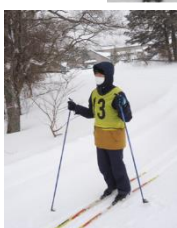
コロナ禍でしたが、感染症予防に努めながら実施できたことは、とても子ども達の学びの充実につながりました。



「スキー教室」

二月十九日(金)に、休暇村裏磐梯でスキー教室を実施しました。当日は雪が少し降りましたが、生徒は元気に活動することができました。今年度は、クロスカントリースキーに挑戦しました。事前に体育の授業で何度か練習したことで、スキー板の装着がスムーズにできたり、歩く、滑るといった動きに自信をもって取り組むことができていたりして、当日は白銀のコースを満喫することができました。坂道の登りだけでなく進まずに苦戦したり、坂道の下りのスピードを楽しんだり、木の枝に乗った雪を落とすことを楽しんだりと活動中の楽しみ方は様々でした。昼食は山塩ラーメンを食べました。山塩ラーメンは全員が大盛りの量でしたが、生徒からは「もっと食べたいたい。」という声が聞かれました。活動終了後は、「また行きたい。」「また、クロスカントリースキーをやりたい。」といった生徒の感想が聞かれ、とても思い出に残るスキー教室になりました。

中学部

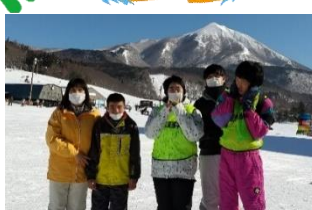


「スキー教室」

二月十二日(金)アルツ磐梯スキー場にて実施しました。当日は、風もなく二月とは思えないような暖かな日となり、とても良い天候の中行うことができました。

スノーシュー班の生徒たちは、景色を楽しみながらスキー場の敷地内をたくさん歩きました。スキー班の生徒は、リフトに乗り、長いコースをターンしながら、たくさん滑ることができました。生徒たちは、学校の雪山で練習してきた成果を、長いコースで発揮することができ、広く整備されたコースを思う存分、時間を忘れて楽しく活動することができました。

高等部



「清掃奉仕活動」

十一月四日(水)、福島県ビルメンテナンス協会に所属する県内十六社三十七名の方々による清掃奉仕活動が行われました。

当日は朝から雨模様で、清掃活動に支障があるのではと心配されましたが、いざ清掃が始まると雨も上がり、校舎周辺の落ち葉拾い、校舎の窓ガラス清掃、トイレの床清掃、ワックスかけなどを行っていただきました。当日は感染症対策として開始前に検温いただき、マスクを着用の上、作業を行っていただきました。福島県ビルメンテナンス協会は福島県特別支援学校作業技能大会など、ビルクリーニング部門で監修、審査を行っていただいております。これまでも社会貢献活動の一環として他地区の特別支援学校において清掃奉仕活動を行ってきたそうですが、会津地区においては初めての取り組みでした。

最後に中学部、高等部の作業学習で製作した作業製品を記念品として贈呈し、みなさんに大変喜んでいただきました。



卒業生へ

担任からのメッセーじ

「小学部」

Sさんへ

何にでも丁寧に取り組み、やるべきことは、きちっとできる素直なS君。絵を描くこと、文字を書くこと、踊ることが大好きで、いろいろな場面で、活躍し、周りを笑顔にしてくれました。これからも、豊かな感受性を生かしながら、得意なことを伸ばし、成長していつてくださいね。応援しています。

三城 颯人さんへ

いつも穏やかで優しく、自分から友達に話しかけたり、仕事を手伝ったりしてくれた颯人君は、みんなをつなぐムードメーカーでした。颯人君の、「できるようにになりたい。」と頑張る力、そして本当にできるようになっていく力は、素晴らしいです。これからの成長を楽しみにしていますね。

渡部 未麗さんへ

いつも元気で明るい未麗さん。好奇心いっぱい、何にでも興味を持ち、特に学習面での成長は素晴らしいです。優しく思いやりもある未麗さんは、クラスのお日様でした。これからも、いろいろなことにチャレンジして、活躍の場を広げていつてくださいね。期待しています。



「中学部」

菊池 優理香さんへ

中学部のリーダーとして活躍してくれました。思いやりがあり、いろいろなことに気付くことができるあなたは素敵です。自信をもってください。高等部での活躍を期待しています。

平野 義朋さんへ

三年生の途中から転校してきて慣れるまでは大変でしたね。下校時は毎日ジャニーズの話をしていました。あなたの素直さや真面目さを高等部でも発揮してください。応援しています。

秋津 楽歩さんへ

歌が大好きな楽歩さん。あなたの素敵な声は学級を明るくしてくれました。高等部でも持ち前の元気と笑顔で楽しく歩んでください。応援しています。

高橋 礼さんへ

心優しい礼君。友達が休むと「どうしたの?」といった気遣ってくれましたね。得意のキャッチボールや手話を使って高等部の先輩たちと楽しく過ごしてください。

皆川 健次郎さんへ

いつも元気いっぱいな健次郎君。雨の日も、雪の日もいっぱいウォーキングしましたね。高等部でも、たくさん体を動かして毎日穏やかに過ごしてください。



「高等部」

川原田 颯さんへ

「ぼくはこう思います。」と、自分の意見をよく伝えてくれた颯さん。その素直さをもち続けながら、得意なことをどんどん増やしていつてください。

Dさんへ

係の仕事を忘れないしっかり者のDさん。可愛いものを見つけるとすぐに教えてくれましたね。これからもたくさんの人とお話を楽しんでください。

藤田 勇輝さんへ

クラスのムードメーカーだった勇輝くん、たくさんの笑いをありがとう。あなたの良さが発揮され、頼られる存在になることを期待しています。

Aさんへ

いつもそっかしい先生に「手伝いましょうか。」と声を掛けてくれるAさんの優しさはとても素敵でした。また一緒に野球しましょうね!

西田 颯太さんへ

颯太さんの笑顔は周りの人を穏やかな気持ちにさせてくれました。これからも明るく、いろいろなことに挑戦していつてください。

小椋 通さんへ

友達思いで真面目で、ちょっとおっちょこちょいな通くんが、先生は大好きです。まだまだたくさんお話ししよう。これからも、よろしく。



鈴木 誠人さんへ

「だいじょぶだ。」といつも前向きな言葉を掛けてくれた誠人さん。新東校舎のスロープが大好きで、いつも窓の外を眺めていましたね。そこで過ごす時間は、最高のひとときだったことでしょう。卒業後も、たくさんのお会いの中で充実した毎日が送れることを願っています。



編集後記

卒業を迎えられた児童生徒のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。

今年度の卒業証書授与式は感染症対策として規模の縮小や小・中学部と高等部を分けての実施となりましたが、それぞれの晴れ舞台において真剣な眼差しで立派に臨んでいる卒業生の姿は、とても感動的でした。今年の冬は昨年よりも多くの雪に恵まれ、雪山で元気いっぱい子ども達が遊んだり、スキーをしたりする姿が見られ、いつもの猪苗代の風景が戻ってきたことをうれしく感じました。コロナ禍ではありますが、来年度も様々な活動を通して子ども達の笑顔が見られることを願っています。